

長岡崇徳大学教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)

旧カリキュラム（2025 年度まで）に対応

編成の基本的考え方

- 1) 豊かな人間性と倫理観を身につけ、共感的理解をもって行動でき、思考力、創造力を高めること、また、人々を取り巻く社会環境について理解を深め、幅広い学際領域の知識の応用と社会力を向上させるために【基礎教育科目】を全学年にわたって配置している。そこで培った「崇徳」の理念や倫理観を 1~4 年次に配置し、看護専門科目および看護学実習をとおしてさらに理解を深める。【ディプロマ・ポリシー1)に対応】
- 2) 看護実践の科学的根拠となる人々の健康と疾病の理解を深めるために、【専門基礎科目】として「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復過程」に関する科目を 1・2 年次に配置することによって、あらゆる発達段階や健康レベルにある人々への看護実践の学修につながられるようにしている。【ディプロマ・ポリシー2)に対応】
- 3) 看護実践に必要な知識・技術・態度を修得する【専門科目】では、看護の基本な考え方や援助方法に関する「看護学概論」「看護援助論」「基礎看護技術演習」を 1 年次に配置し、看護学への動機づけとしている。また、それらの科目で得られて知識・技術をあらゆる発達段階の健康レベルにある人々の看護実践の理解につなげるために 2・3・4 年次に「生涯発達と看護」「地域社会と看護」を配置し、さらに臨地実習とおして段階的に看護実践能力の向上を図るようにしている。【ディプロマ・ポリシー2)に対応】
- 4) 連携・協働力では、保健医療福祉および介護領域において、看護職者の専門性を自覚し、多職種間で連携、協働できる能力を修得するために、1 年次に「チーム医療論」を配置している。さらに、地域を基盤とした看護活動の考え方を学び、公的ヘルスケアサービスにおける連携・協働力を高めるために「公衆衛生看護学概論」を配置している。2 年次では各領域の看護学概論、援助論の講義・演習において理解を深め、3 年次では保健・医療・福祉・介護施設での臨地実習をとおして連携、協働の体験的学び、進歩・変化の著しい保健医療分野の動向と課題について、健康と社会システムに関する科目として「保健医療福祉行政論」を配置している。4 年次では保健医療福祉における看護職者の位置づけと役割の法的根拠を「看護関係法規」をとおして学修し、「統合実践実習」において医療機関・施設との連携や多職種連携の実際を体験的に学修することによって、連携・協働力の涵養を図っている。【ディプロマ・ポリシー3)に対応】
- 5) 探求力では、知識と技術を統合し看護学への関心を深め、探求し続けるために、1 年次に「スタディスキル」「情報処理法」「情報活用法」を配置し、さらに「キャリアデザイン I」において看護職としての自律的なキャリア形成について学修する。また、4 年次の「キャリアデザイン II(選択)」「看護管理論」においてもキャリア形成を継続的に学修し、その定着を図っている。3 年次に「統計分析法」「看護学研究法」を配置し、看護研究の基礎を学修し、研究計画書の作成を体験する。さらに 4 年次では、教員の個別指導により自ら

の興味・関心事から研究計画書を作成する。それに基づいて研究を遂行し論文作成・発表の体験をとおして探求心をもって研究に取り組めることができる能力の育成を図っている。

【ディプロマ・ポリシー4)に対応】

6) 地域で生活する人々の健康問題と看護、災害看護に関する科目として、1 年次より早期に「地域活動論」「地域包括ケア論」を配置し、2 年次では地域・国際的な健康ニーズを理解するために、「保健統計学」「疫学」を配置している。4 年次ではそれらをふまえ、新潟県へき地(山間部・離島)の生活環境を理解し求められる看護の役割を学ぶ「へき地看護論」を配置している。また、中越地震・中越沖地震をふまえ、予期せぬ事態に備えた災害時の地域・保健医療福祉との連携・協働の基礎を学修し、3・4 年次に災害看護活動論の講義・演習につなげて、地域的視野の獲得できるようにしている。国際的視野では、グローバル化する看護職者の活動の場で役割を担うために必要な外国語運用能力を高める「ベーシック英語」、2 年次は「看護に活かすコミュニケーション英語」を必修とし、3 年次は「医療英語」、4 年次は「英文講読」「韓国語」「中国語」を配置する。また、異文化を理解する能力を高めるために 2 年次に「民族と宗教」、4 年次に「国際ボランティア論」を配置する。さらに、海外研修を企画し、国際的視野を獲得できるようにしている。 【ディプロマ・ポリシー5)に対応】

実施の基本的考え方

- 1) 低学年次では、基礎的教育科目と専門基礎科目を配置し、看護師としての基礎的知識・学力を身につけさせ、高学年次では、看護師としての専門知識や技術等を身につけさせる専門科目を配置する。同じく高学年次での臨地実習などにより総合的な実践力を身につけさせる。
- 2) 実施にあたっては、科目内容の修得に適した講義、演習、実習等の形態をとる。また、ルーブリック評価の導入により、学生の学習理解度の向上につなげる。
- 3) 成績はディプロマ・ポリシーを踏まえた各科目の達成目標の到達度に基づき評価する。